

学校になじめない
お子さまの
「自信を育てたい」
お母さまへ



親が、わが子を
「思いやりながら育てる」

親が、わが子を「思いやりながら育てる」


思いやりのある子に育てるには、
「どうしたらいいのか？」と考えました。

たくさんの書籍を読みました。
児童心理学や、行動科学など、さまざまな分野の本です。

そうして気づいたのですが、
同じことが、言葉を変えて表現されています。

どの著者も、ほぼ共通して、
次のような方法を提案しています。

- 子どもが親の愛情を実感できるようにすること。
- 親が自分のストレス解消に心がけ、感情を子どもにぶつけないようにすること。
- 叱らないシステムを工夫すること。
- どうしてもできないことには目をつぶって、子どものいいところを伸ばすこと。



つまり、
子どもに親の愛情を実感させつつ、
子どもを「叱らない」でしつける方法です。


これらの方法は、
思いやりのある子を育てるためにも、
その基本的な前提として大切なものです。

大切なこととは、ある意味では、
当然なことばかりなのですが、イザ、
実行するとなると、難しいですね。

私自身の20数年前を思い出してみても、
子どもに悪かったな・・・と思うことが
たくさんあります。

もう一度、自戒の気持ちで確認します。

思いやりのある子に育てたいなら、
親がわが子を「思いやりながら育てる」こと。



それが大切なこと。
それが唯一の方法です。


親にしてもらったのと同じことを、
子どもたちは、人に対して、
行うようになるからです。

「思いやり」で一番大切なことは？

「そんなことは、親なら誰でもやっている」
という声が聞こえてきそうです。

でも、私自身を振り返ってみて思うのですが、
実際にはそうでもないのです。

親はそのつもりでも、
子どもの立場からはそうではない
ということがとても多いのです。



親は子どもを思っているのに、
いろいろなことをやっているはずなのに、
実際はそうになっていない・・・
ということがとても多いのです。

それはなぜかというと、

「思いやりながら育てる」上で
一番大切なことを、見落としがちだからです。

「思いやりながら育てる」上で一番大切なこと、
それは、
子どもを理解することです。

特に、

「子どもの状態や気持ち」を理解することです。

言い換えれば、

「もし自分だったらどうか？」と
自分の身に置き換えて想像することです。

子どもの状態や気持ちを本当に理解すれば、
自然に受容と共感が生まれてきます。

理解と受容と共感の3つが、
「思いやりながら育てる」ための
キーワードです。

これを頭に入れながら、
続きを読んでください。



赤ちゃんが深夜、泣いたとき授乳するべきか？

「思いやりとは何か？」を考えていて、とても象徴的な話を読みましたので、ご紹介させていただきます。

『子どもへのまなざし』
(福音館書店)。

児童精神科医の
佐々木正美氏が
お書きになりました。

関係するところを
全文引用すると
長くなり過ぎますので、
前の部分は、私の要約です。

そして、最後のところだけを、
そのまま引用致します。



「以下要約」

30年も前のこと、
ヨーロッパの研究者たちの間で、
2つに、意見が分かれていました。

- 1 赤ちゃんが望んでいることは、どんなことでも
無条件で満たしてあげた方がいいかの？
- 2 そうしない方がいいのか？

それで、赤ちゃんを2つのグループに分けて
実験することになりました。

1つ目のグループ：A

泣いても深夜には授乳しない。
昼間も規則正しく面倒をみる。
乳児院のやり方を徹底する。
定期的に授乳する。

2つ目のグループ：B

子どもが望むたびに授乳する。
子どもの要求に、可能な限り従う。
あやしてあげるとか、抱っこしてあげる。
子どもの希望は、できる限り全てかなる。

その結果、1つ目のグループAでの変化。

早い赤ちゃんで3日後には
翌日の朝まで泣かないで
おっぱいを待てるようになった。

残りのたいていの赤ちゃんも
1週間前後で、翌日の朝まで泣かないで
おっぱいを待てる子になった。

しかし、その後何年にもわたる追跡調査の結果、
次のことが分かりました。



以下、『子どもへのまなざし』（福音館書店）より引用

=====

「3日にしろ、1週間をこえてにしろ、
結局はだめなものはだめだということで、

泣きやむしかなかったということは、
子どもの心に

周囲の人や世界に対する
漠然とした根深い不信感と

自分に対する無力感のような感情を、
もたらしてしまうということです。

それに対して、
深夜であろうと、そうでなかろうと、

泣くことで自分の要求を表現すれば、

その要求が周囲の人によって、
満たされるということを
体験し続けた赤ちゃんは、





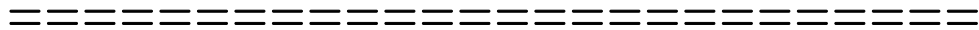
これから報告しますように、

自分を取りまく周囲の人や
世界にたいする信頼と、

自分に対する基本的な自信の感情が
育まれてくるのです。

.....

(以下省略)。」




私は、この話を読んで
実験の対象になった
1つ目のAグループの子たちが、
かわいそうになりました。

このときの心の傷を取り戻すのには、
長い年月がかかるはずです。

人間を対象にした実験は、
本当に慎重でなければなりません。






でも、研究者の中には
1つ目のAグループのやり方がよい
とっていた人もいたのです。

人間に関する研究は、
本当に遅れていると言わざるを得ません。

人類が何万年も生きてきて、今まで、
こんな基本的なことが分からなかったか！
と不思議でなりません。

でも、
賢くて思いやりのある親たちは、
そういうことを本能的に理解して
実行してきたのだと思います。

そうでなければ、人類は、今まで
生き延びてこなかったはずです。



また、世界中、すべての親たちに、
そのような思いやりが、あるからこそ、
私たちは成長してきたのだと思います。

ふとしたきっかけで、私は、
子どもたちが、今生きている世界を
見ることになりました。

そうして、疑問だらけになりました。

私の接したのは、ほんの一部分の
子どもたちですが、それでも、
問題はたくさんありました。

神妙な表情の子ども。
おどけてお話をしてくれる子ども。
ワザと、ふてくされてみる子ども。

でも、子どもたちは、みんな
自分が成長することが大好きです。

それなのに、保護者だけではなく、
教育を担当している人間の中にさえ、
つぎのようなことを言う人たちがいるのです。



- ? 要求を満たしてやることは、子どもをわがままにする…
- ? とにかく甘えさせないで、厳しく育てるべきだ…
- ? 不登校は、育て方の誤り…
- ? 勉強して成績さえ上げればいい…

今まで、私のレポートをお読み下さったあなたには、
すでにご存じのことを、再確認していただきました。

思いやりのある子に育てたいなら、
親がわが子を「思いやりながら育てる」こと。

理解と受容と共感の3つがキーワード。

お子さまの学習、習慣づくり、将来の展望など、
どんな小さなことでも、気軽にお電話下さい。

「スタディ・コーチング・ラボラトリー」代表の
福田秀一が、直接、お話をうかがいます。

ご連絡は、今すぐ！

e-mail : a_totalperson@yahoo.co.jp
(PCにて、24時間受付)

